

## ハンセン病を知っていますか？



### 正しい知識こそ解決に向けた大きな一歩

ハンセン病は、感染力が非常に弱く、薬で治る病気ですが、国の誤った政策で、病気にかかると家族と引き離され、強制的に療養所に入れられました。このため、治らない怖い病気であるという間違った知識が広まり、多くの入所者の方々は、治った後も療養所にとどまらなければなりません。また、家族の方々も、長い間厳しい差別にあいました。

ハンセン病に対する誤った認識や差別をなくするためには、ハンセン病を正しく理解することが大切です。県では、庵治町にあるハンセン病の療養所「大島青松園」の入所者と地域の人たちとの交流会やパネル展の開催、入所者の皆さんから聞き取りをしてまとめた本「島に生きて」の発行、映画「風の舞」の制作協力などの事業を行っています。

この本は、ハンセン病を正しく理解していただくために作成しました。

私たちは、入所者の方々の声を心に止め、差別をなくし、人権の回復に努め、同じ誤りを二度と繰り返してはなりません。

皆さんが、人権について考え、すべての人が、共に助け合って生きていける社会をつくってほしいと願っています。